



人吉市のハラール研究

平成25年3月

人吉市役所総務部企画財政課

はじめに



- 人吉市は、平成24年度に内閣府より特定地域再生事業の補助金認可を受け、「地域起点型アジア市場の研究プロジェクト事業」としてハラールに関する市場調査や実態調査を行い、人吉市の施策としての取り組みを検討・協議しています。
- 「ハラール研究会」の開催、視察、研修・セミナーへの参加、関係者に対する調査、アンケート、インタビュー等の実施。



目次

- ハラールとは？ 1
- ハラールとは？ 2
- キーワード
- ハラームについて
- 世界と日本のムスリムについて
- ハラールビジネスについて
- ハラールビジネスの形態
- ハラール認証について
- ハラールサービスの形態
- ローカルハラールについて
- ムスリムフレンドリーについて
- その他 1
- その他 2
- 人吉市の取り組み 1
- 人吉市の取り組み 2



ハラールとは？ 1

- ハラールとは「HALAL」と書き「ハラル」「ハラール」と読むが、アラビア語では「HALLAL」と書くので、人吉市では「ハラール」と呼び表記する。
- アラビア語で「許されたもの」を意味する。
- イスラム教の教えである「シャリーア法」とイスラム原理で許される物又は行為など「健全な商品や活動」のこと全般を意味する。
- 反対に許されないものは「ハラーム」と言い、疑わしきものを「シュブハ」と言う。
- 疑わしきもの「シュブハ」は口に入れるな、触れるなどの教えがある。

ハラールとは？ 2

- イスラム教は諸説あるが、世界三大宗教の一つとしてキリスト教、仏教と並びあげられる。
- イスラム教徒の方を「ムスリム」と呼ぶ。
- ハラールとは、ムスリムに対する全てのサービスを総称する。
- 食・金融・医療・流通・運輸等あらゆるものがハラールとして扱われる。

キーワード

- ハラールに取り組む上で重要なキーワードは、「豚」と「アルコール」
- 「豚」は最も禁忌とされている。
- 「アルコール」も禁忌とされているが、ムスリムによっては、海外に出た時に飲酒する者もいる。厳格な者そうでない者が居て、判断は自分で行うので外部の者が強要することはしない。



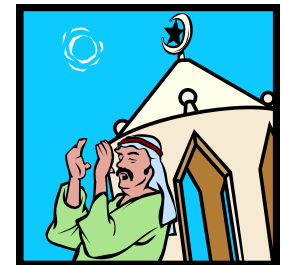
ハラームについて



- 豚肉だけが禁忌とされているのではない。
- 食品や医療品には、多くの豚に由来する成分が含まれている。
- 例：ゼラチン、乳化剤、酵素、医薬品等は注意が必要
(在住ムスリムの方は、酒・豚・乳化剤・ゼラチンは駄目と分っているのでこの文字及びカタカナは読めるように勉強すること)
- 豚以外にも牙を持った動物、両生類、爬虫類や不浄な物、有害や中毒性のある物などはハラーム。
- 豚以外の牛や羊、ヤギの肉は食されるが、お祈りを上げながら決まった処方で屠畜しないといけない。
- 処方に沿わず屠畜したもの、事故死や病死した死体はハラーム。

世界と日本のムスリムについて

- 世界人口70億人のうちイスラム人口16億人で4分の1を占めている。(2009年)
 - 今後増えて20億人になり3分の1を占めると言われている。(2020年)
 - 世界中に広まっているが、そのうちアセアン諸国(インドネシア・マレーシア・シンガポール等)が占める割合が多く、特にインドネシアとマレーシアの二カ国で14%を占めている。
 - 日本国内には、10万人が在住している。
 - ほとんどが留学生と労働者。
 - 九州には1万人が在住している。
- (数値は、正式な統計をとっていないので推測)



ハラールビジネスについて

- ムスリムに対するサービスの提供、商品販売等をハラールビジネスと言う。
- ムスリムは、ハラール製品、サービス以外は受入れない。
- ムスリムを相手に商売、サービスを提供する際は気を付けなければいけない決まりがある。



ハラールビジネスの形態

- ・ アウトバウンド(国外を主にした形態)

世界の4分の1から3分の1を占めるイスラム教徒(ムスリム)をターゲットに行うビジネス。

- ・ 製品・原材料等の輸出

○ハラール認証を必要とする、認証が無くても相手側が望んだ製品を輸出しているケースもある。

- ・ 認証を得る場合は、直接相手国の認証機関に相談・申請する事が望ましい。

○認証を得るためには、相当な時間と経費を要する。



- ・ インバウンド(国内を主にした形態)

海外から国内に来る又は、国内在住のイスラム教徒(ムスリム)をターゲットに行うビジネス。

- ・ ハラールツーリズムによる観光客、宿泊客の受入、食事、サービスの提供等
- ・ ムスリム、ハラール対応のメニュー、対応、仕様等の開発、研修を必要とする。



ハラール認証について

- 「ハラール」認証とは、イスラムの教えコーランに従いながら認められる証。
- イスラム教徒にとって「安心・安全」で、購入・利用をする際に選択の指針となる。
- 認証は「ハラール証明書」によってなされ、商品等には「ハラールマーク」が表示される。
- 認証の承認、発行はハラール認証機関が行うが、世界中に数百あると言われ、国内にもいくつもの認証機関が存在する。
- 認証機関は、政府機関・宗教関係・NPO・企業・民間団体等様々。
- 世界的統一ルールは無く、各国、団体それぞれのルールで認証している。
- 法律的に定められたものではなかったが、法律で定める国が近年現れている。
- 国際的認証機関の例 JAKIM(マレーシア)・MUI(インドネシア)・MUIS(シンガポール)
- ハラール認証は、その国々で認証が必要となる。

ハラールサービスの形態

- 大きく分けて3つのハラールサービス。
- 「スタンダードハラール」 最も厳格にイスラム圏の国のルールに基づき、各国の認証機関が認証を行うサービス
- 「ローカルハラール」 日本国内独自のオリジナル認証を行うサービス
- 「ムスリムフレンドリー」 ハラール認証に依らない、ムスリムとの信頼関係に基づくサービス

ローカルハラールについて

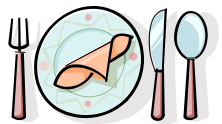
- 日本は非イスラム国であるので、完全なハラール対応は不可能。
- 日本国内でハラールサービスを行なうために生まれたのが「ローカルハラール」
- 厳格なハラールは出来ないが、それに沿って日本国内で可能な限り近づけた対応を行うサービス。
- 国内認証機関が手掛けるのがローカルハラール認証。
- 国内におけるハラールブームの火付け役。
- 昨今のハラールブームにより「雨後の筍」のように認証団体が乱立する状態で、その見極めが必要。
- ハラール認証は製品・サービス購入する際の目安となるが、認証を得たからと言って商売が出来る訳ではない。

ムスリムフレンドリーについて

- 国内在住のムスリムから提唱されたハラールサービス。
- ムスリムと企業、団体、商店、日本人が信頼関係を築き、互いの信頼関係の上で行うサービス。
- ムスリムが手掛けるもの、推薦・推奨するものはハラールとして扱う。
- 製品の成分表や製造過程を分かり易く表示したり、英語で表示したり、絵で表示したりする。
- ノンポーク・ノンアルコールと表示したりする。
- 相手(ムスリム)に情報を開示し、こちらが出来る限度で対応を示し、相手(ムスリム)に判断をしてもらう。
- ハラール認証がされていなくても、ムスリムは各自で判断する。
- ムスリム同士のコミュニティにより情報を共有する。
- 信頼関係を築き上げたら裏切らないこと。



その他 1

- 調味料にも注意が必要であり、味噌・醤油・みりん等にもアルコールや成分が入っているため気を付けること。
- 調理器具や食器も専用の物を使用することが望ましいが、食器は相手が容認すれば供用も可能。
- 豚肉料理で使用した油は使用しない。
- 魚介類・野菜類は基本ハラールである。
- 豚肉以外の肉(牛・鶏・羊・ヤギ等)も、決まりに沿った処理(屠畜)がされていなければいけない。
- 酒席と会場が同じになった場合は、衝立等で区分けする配慮が必要。

その他 2

- 異性との接触が厳しいので、接客時の服装や同性による接客等配慮を必要とする場合がある。
- 肌の露出の高い服装は、なるべく避ける。
- おもてなしの心を持って接すること。
- ハラール認証は一つのビジネスアイテムである。
- ハラール認証が無くてもハラール対応は可能。
- ハラール認証を得たからと言って、商売が出来るとは限らない。
- ハラール製品はムスリムだけではなく、日本人も利用が出来る。
- 説明、表示について英語表示がされているといい。



人吉市の取り組み 1



- ハラール受入れ体制の推進・構築を目指す。
- 宿泊施設(ホテル・旅館)・飲食店・観光施設・土産店のハラールへの取組み推進・助成並びに雇用拡大を目指す。
- 受入れ体制後の市内ハラールマップの作成。
(英語表示含む)
- 各地マスジド(福岡・熊本)を通じてハラール対応をPR(マスジド:イスラム教徒の教会・集まり。ムスリム同士の連携、絆がとても強く、口コミによる情報発信が非常に有効である。)

人吉市の取り組み 2



- 国内留学生、在住ムスリムによるモニター及び意見交換の実施。
- ハラルに関する研修・セミナーの推進・実施。
- ハラル認証牛肉の観光資源化及び商材、ハラルメニュー、製品の開発・販売促進を目指す。
- 観光資源及びハラル製品の新規開発・販売促進を目指す。
- セントラルキッチン及びハラル関連企業の誘致・集約を目指す。
- ハラルに関する情報収拾及び情報発信。